

新しい資本主義イノベーション

令和 4 年 3 月 8 日

株式会社経営共創基盤

IGPI グループ会長 富山和彦

・ DX x GX による破壊的イノベーションの時代の成長のメインエンジンは、名著「イノベーションのジレンマ」が語る通り、これまでもこれからも宿命的に大学・研究機関周辺から生まれるスタートアップ、ベンチャー企業群であることを日本の産業界、金融界、アカデミア、教育機関の圧倒的な共通認識にすべき

ー不連続なビジネスモデルの創造と変化、ゲームチェンジが起きる

ー研究開発投資のリターンにおいて既存民間企業の投資が相対的に（ローリスク）ローリターンになり、大学や研究機関向けの公的投資が（ハイリスク）

ハイリターンになる必然性

ー官民の連携と言う時、民の主役はスタートアップエコシステムを形成する

民間のプレーヤー（VC、ベンチャー支援プロフェッショナルサービス、研究者、スタートアップ自身・・・）

・次にかかるグローバルモードの破壊的イノベーションの生態系は、必然的にグローバルなものであり、「日本人の日本人による日本人のための」という発想ではまったく勝負にならないことも肝に銘じるべき

・日本と言う地域をホームとする（地域的優位性のある）、世界のベスト＆ブライテストが集まる生態系を作れるか否かが勝負であり、それができなければ日本人のイノベーターのレベルも上がらない

・そこでまずは絶対にクリアしなくてはならないのが、世界のベスト＆ブライテストにとって、人生のプライムタイムを送る場所として日本が魅力的である最低限の条件が整っていること

・そこでの最低必要条件は、

- ① 安全で快適で楽しい場所であること
- ② 税制面で会社にとっても個人にとってもスタートアップフレンドリーであること
- ③ 在留資格などの面でストレスがないこと
- ④ 子弟の教育においてグローバルトップ大学への進学上不利にならないこと、

- ⑤ 研究者を含む知的高度人材の報酬が世界相場であること
- ⑥ 世界クラス（基礎研究レベルにおいても事業化意欲においても）の大学・研究機関、関連企業群（必ずしも大企業とは限らない）のクラスターの存在

・この中で日本は①（安全、快適性、楽しさ）は OK、⑤⑥（大学改革、報酬水準）はまさに問題克服に向かって走り出したわけだが、②（税制）③（在留資格）④（子弟の教育）で劣位に立つと、結局、大したことは起きない。この 3 点でも世界的に優位に立つことは DX x GX 時代のイノベーションドリヴン成長実現の絶対必要条件である。新しい資本主義の時代、ESG の時代になってもこれは絶対に変わらない。